

公会計制度に基づく財務書類について

現行の会計方式が、単年度の会計年度の資金の流れ(フロー)を中心としているため、将来発生する費用や、資産及び負債などのストックに関する情報がわかりにくくなっている。

そのため、企業会計手法を用いた貸借対照表等の財務書類を作成し、本市の資産の状況や、この資産形成の財源であった負債、純資産等の状況を示すことを目的とする。

本市では、公会計制度に基づく「総務省方式改定モデル」により財務書類4表を作成している。

《作成範囲》

- ・ 普通会計…市の一般会計
- ・ 連結範囲…市の特別会計及び企業会計

1 貸借対照表(バランスシート)

平成27年度末において、本市の資産がどれだけあり、その資産をどのような財源(負債・純資産)でまかなってきたかを一覧にしたもので、左側に「資産」を表示し、右側に「負債」及び資産と負債の差額である「純資産」を計上している。

貸借対照表から黒部市の財政状況を見ると、普通会計では将来世代の負担である「負債」に対し、保有している「資産」は約3倍となっている。

平成27年度 黒部市 貸借対照表

(表示単位:千円)

資産の部 (これまで積み上げてきた資産)			負債の部 (将来の世代が負担する金額)				
	普通会計	連結		普通会計	連結		
1 公共資産	(1) 有形固定資産 土地、建物、備品等の事業用資産	89,989,934	146,226,052	1 固定負債	(1)地方債	28,374,097	56,238,704
	(2) 売却可能資産 未利用資産	1,615,008	1,615,008		(2)その他	2,399,988	3,038,887
		91,604,942 (86.2%)	147,841,060 (87.9%)			30,774,085 (29.0%)	59,277,591 (35.2%)
2 投資等	(1) 投資・出資金 有価証券、出資金	8,094,604	7,627,223	2 流動負債	(1)地方債	2,254,648	4,297,931
	(2) 基金等 基金	3,497,349	3,779,380		(2)その他	300,581	2,018,188
	(3) その他 貸付金、長期延滞債権	190,317	737,972			2,555,229 (2.4%)	6,316,119 (3.8%)
		11,782,270 (11.1%)	12,144,575 (7.2%)	3 繰延収益			14,455,706 (8.6%)
			負債合計		33,329,314 【31.4%】	80,049,416 【47.6%】	
3 流動資産	(1) 資金 現金、預金	631,103	3,999,725	純資産の部 (既に保有している財産に対する財源)			
	(2) 財政調整基金等 財調・減債基金	2,227,133	2,227,133	純資産合計			
	(3) 未収金	44,390	1,974,135		72,960,524 【68.6%】	88,137,212 【52.4%】	
	2,902,626 (2.7%)	8,200,993 (4.9%)					
資産合計	106,289,838 【100.0%】	168,186,628 【100.0%】	負債及び純資産合計	106,289,838 【100.0%】	168,186,628 【100.0%】		

2 バランスシートからみた黒部市の財政状況

① 市民一人あたりの普通会計の貸借対照表

資産 合計	2,543千円	負債 合計	797千円
		純資産 合計	1,746千円

※黒部市人口 41,805 人(H28.3.31 現在)

② 社会資本形成の世代間比率

貸借対照表では、「純資産」は現役世代(過去の世代含む)が負担した財源、「負債」は将来世代の負担する財源であるという特徴を活かして、公共資産の世代間の負担割合を見ることができる。

$$\frac{\text{純資産 合計 } 72,960 \text{ 百万円}}{\text{公共資産 合計 } 91,605 \text{ 百万円}} = 79.6\%$$

社会資本の約 8 割を現役世代の負担で形成したことになり、将来世代への負担は約 2 割となっている。

③ 純資産比率

総資産に対し純資産の割合を示すもので、企業会計の財務分析において、財務の安定性を図る指標である自己資本比率に相当する。

$$\frac{\text{純資産 合計 } 72,960 \text{ 百万円}}{\text{総資産 合計 } 106,290 \text{ 百万円}} = 68.6\%$$

この純資産比率が高いほど財政状況が健全であるといえる。

④ バランスシートの対前年比較

(表示単位:百万円)

資産の部				負債の部・純資産の部			
	27年度	26年度	増減		27年度	26年度	増減
公共資産	91,605	88,344	3,261	固定負債	30,774	29,541	1,233
投資等	11,782	12,353	△571	流動負債	2,555	2,799	△244
流動資産	2,903	3,162	△259	純資産	72,960	71,519	1,442
資産合計	106,290	103,859	2,431	負債・純資産計	106,290	103,859	2,431

平成 26 年度と比較して、資産合計で約 24 億 3100 万円増加している。これは、27 年度に取得した公共資産が大きく増加したことが主な要因である。

負債の増加は、新しく借り入れた金額より返済した金額の方が少ないことなどによる。また、負債以上に資産が増加していることから、結果として純資産についても増加している。

3 行政コスト計算書

1 年間の行政活動のうち、市の資産形成に結びつかない行政サービスに要するコストと使用料・手数料等の収入を示す財務書類。市の経常的な行政活動の内容が把握できる。

平成 27 年度 黒部市 行政コスト計算書

(表示単位:千円)

	普通会計	連 結
経常費用	16,521,047	30,372,621
1 人にかかるコスト 人件費、退職手当引当金繰入など	3,057,029	7,793,845
2 物にかかるコスト 物件費、減価償却費、維持補修費など	5,299,499	13,390,029
3 移転支出的なコスト 社会保障給付、補助金等移転支出など	7,881,210	7,508,339
4 その他のコスト 支払利息など	283,309	1,680,408
経常収益	510,429	14,250,757
使用料・手数料等	510,429	510,429
事業収益	0	12,110,792
その他特定行政サービス収入	0	1,629,536
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	16,010,618	16,121,864

市民一人あたりに換算すると、次のとおりです。(普通会計)

人にかかるコスト	物にかかるコスト	移転支出的なコスト	その他のコスト	合 計
73 千円	127 千円	189 千円	6 千円	395 千円

4 純資産変動計算書

バランスシートの純資産(資産から負債を引いた残り)が平成 27 年度中にどのように増減したかを示すもの。総額としての純資産の変動に加え、どのような財源や要因で増減したのかを示している。

平成 27 年度 黒部市 純資産変動計算書

(表示単位:千円)

	普通会計	連 結
期首純資産残高	71,519,614	86,547,158
当期変動高	1,440,910	1,590,054
1 純経常行政コスト (経常収益－経常費用)	△16,010,618	△16,121,864
2 財源調達 市税、交付税、国県補助金など	17,465,768	17,668,079
3 その他 臨時損益など	△14,240	43,839
期末純資産残高	72,960,524	88,137,212

5 資金収支計算書

歳計現金の出入りを「経常的収支」、「公共資産整備収支」、「投資・財務的収支」の区分に分けて示すことで、市がどのような活動に資金を必要とするのかを示している。

平成 27 年度 黒部市 資金収支計算書

(表示単位:千円)

	普通会計	連 結
期首資金残高	987,386	7,726,194
当期収支	△356,283	△3,726,469
1 経常的収支 人件費支出、税収入、交付税など	4,608,292	3,297,656
2 公共資産整備収支 公共資産整備支出、資産整備に充てた補助金等	△1,508,239	△2,635,665
3 投資・財務的収支 元利償還金支出、貸付金回収額など	△3,456,336	△4,388,460
期末資金残高	631,103	3,999,725